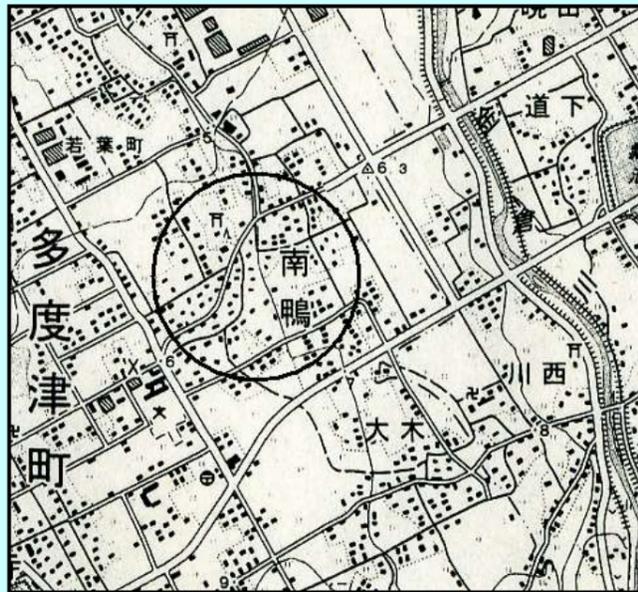


たどつのもかし

Vol.1 (H24.12.21)

みなみがも
南鴨遺跡

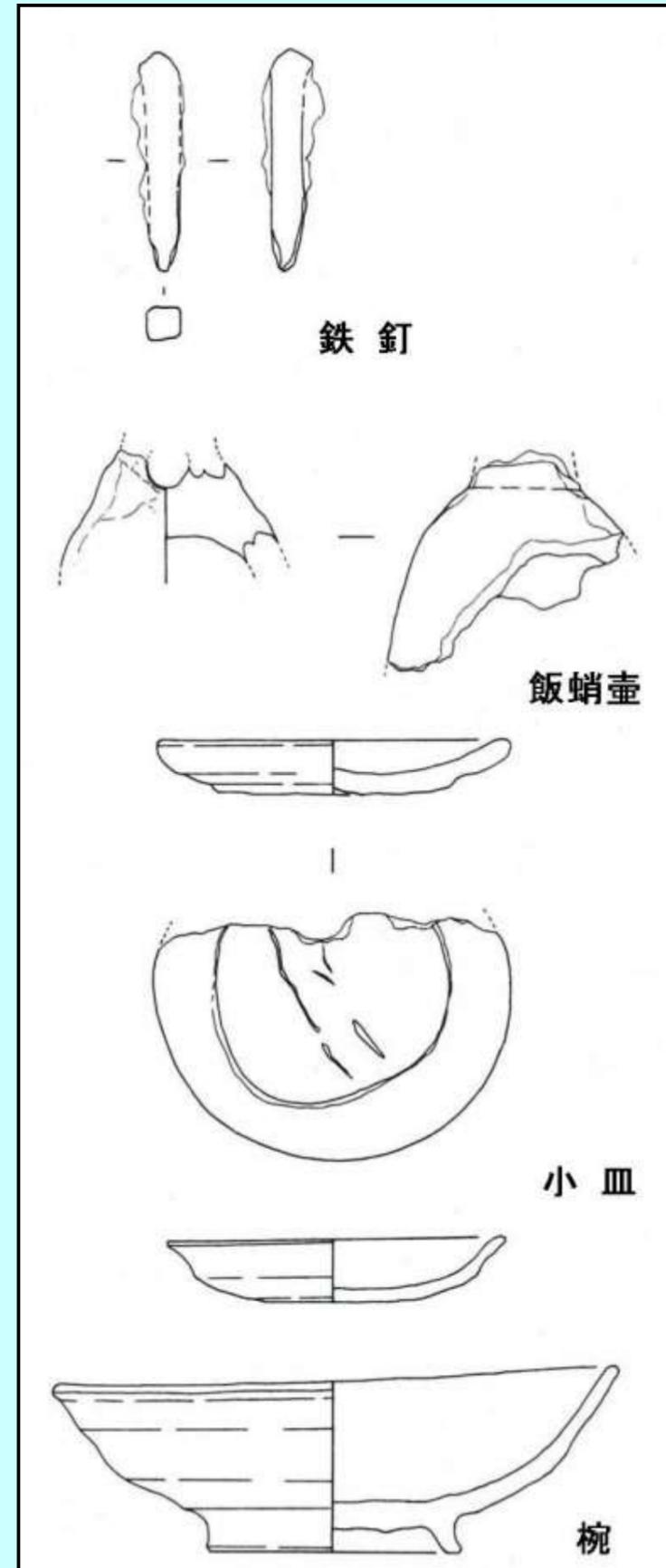


南鴨遺跡は多度津町大字南鴨の賀茂神社(加茂・あるいは鴨という表記もある)周辺にある遺跡です。弥生時代から鎌倉時代まで(2000~700年前:0~13世紀)の土器などが出土しています。

教育委員会では平成24年度の7月・10月・12月に、この遺跡の発掘調査を

行い、古代の終わりから中世にかけての溝を発見し、遺物も多数出土しました。

古代から中世にかけての南鴨遺跡周辺は条里地割じょうりちわりといった1町四方(109m×109m)の区画で整備されるようになっていました。今回の調査で見つかった溝は、その区画の境界に位置する溝なのではないかと考えています。中世には当時の多度郡の葛原庄という荘園内に位置し、遺跡内に賀茂神社があることから、京都の賀茂神社系の荘園として、中世は展開していったのではないかと考えられます。そのため、荘園を管理する何らかの施設の痕跡として、瓦が出土し、当時の人間の生活痕跡として皿・椀・鉄釘などが出土していたと考えられます。また当時は近接する海岸部に「堀江津」といわれる、中世を中心とした港があったとされていますので、漁業に関わるものとして飯蛸壺も出土しています。



南鴨遺跡出土の遺物



溝の状況



古代の瓦